



我等行く手の



令和7年度
5月号
利根商
進路だより

大学入学試験のしくみについて知ろう！

みなさんは大学入試についてどれだけ知っているでしょうか？一言で大学入試と言っても、大きく分けて「**一般選抜**」、「**学校推薦型選抜**」、「**総合型選抜**」の3つの方式があります。自分に合った方式を選択することで、希望する学校に合格できる可能性を高めることができます。

今号で大学入試への理解を深め、自分の進路をより効果的に選択できるようになりましょう。

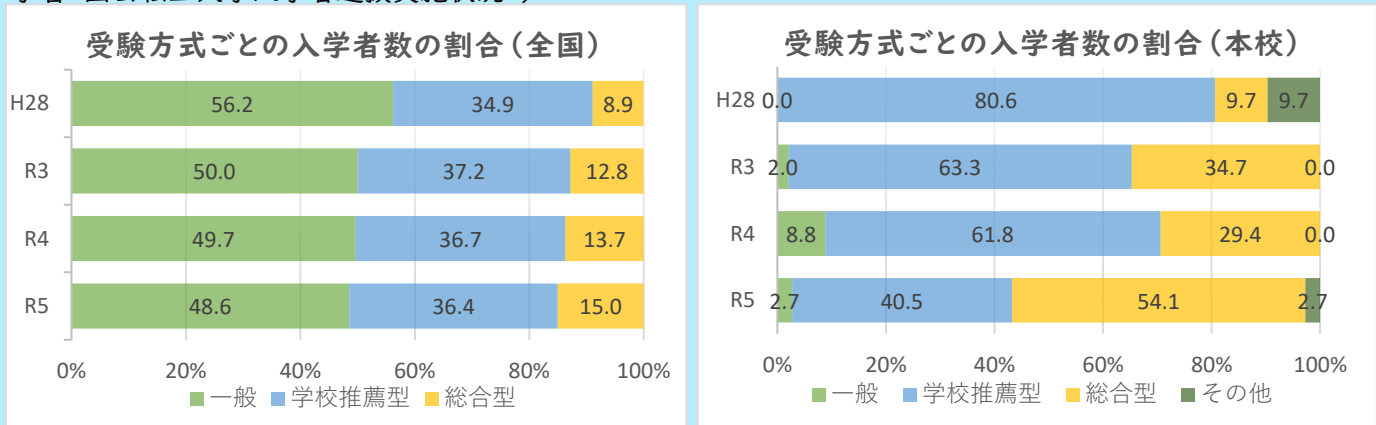
●各方式の特徴

	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜
選考時期	1月～3月	11月～12月	10月～11月
出願条件	特になし（誰でも受験可能）	学校長の推薦が必要 （評定平均、欠席日数など）	オープンキャンパス への参加など
評価方法	学力試験	学力試験、書類、 面接、小論文など	書類、面接、 プレゼン、活動実績など
合格後の 進路変更	可	原則として不可	原則として不可

※大まかな特徴をまとめたものです。学校ごとに異なる点もあるため、希望する学校の情報はしっかりと調査すること！

●最近の傾向

全国および本校における大学入学者の受験方式の割合をまとめると、以下のグラフようになります。（参考：文部科学省“国公立大学入学者選抜実施状況”）



グラフのように、大学入学者に占める総合型選抜の割合は全国的に増加しています。特に、令和4年度以降は、学校推薦型と総合型選抜が合わせて50%上回っています。これは、大学側が単なる学力だけでなく、「高いモチベーション」や「明確な目的意識」を持った学生を求めていることの表れだと考えられます。ただし、学力が必要ないわけではなく、あくまで一定の学力を有した生徒であるという前提の上です。書類や面接、プレゼンテーション、課題など、何らかの形で学力を評価されることを理解しておきましょう。

本校においても総合型選抜で入学する生徒が増加傾向にあり、特に昨年度は大学入学者の半数以上を総合型選抜受験者が占める結果となりました。いずれの生徒も学習以外の活動（部活動や学校行事、探究活動など）で努力を重ねたことや、進学後に何をどんな風に学びたいかをアピールしていました。総合型選抜は、大学で学びたいことがハッキリしており、そのための努力を惜しまなかった生徒にとって、非常に有効な入試であると言えます。

ここまで総合型選抜について述べてきましたが、いずれの方式にも、メリット・デメリットの両方があります。冒頭にも書いたように、自分に合った入試を選択することが非常に大切です。まずは自分で調べてみるところから始めてみましょう。